

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大久保東小学校】

学力向上 アクションマップ		① 今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力		(1)課題解決に必要な情報を収集する力 (2)自分の思いや考えを適切に表現する力	
		↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】		(1)児童が各教科のものの見方や考え方をほたらかせることができるような視点を各種資料(物語文、問題文、絵・図・表・写真・グラフ等)の読み取りの際に提示する【各単元の中で1回以上】 (2)自分の意見や考え、まとめや振り返りなど、学習の中で自分の思いや考えを表現する時間を確実に設定する。【単元の中で2回以上】	
⑤ 年度末評価		② 全国学力・学習状況調査結果の分析	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	特徴的な結果	
		・課題解決に必要な情報を収集する力に関する問題では、全国平均を上回る結果となった。 ・目的に応じて必要な情報を見つける力が身に付いている。 ・算数では、基準量、比較量、割合の関係を表した図から、数量の関係を正しく読み取る力が身に付いている。 ・国語では、考えとそれを支える理由や事例との関係を捉える力に課題が見られた。 ・算数では、帯グラフの特徴を理解し、およその割合を読み取る力に課題が見られた。 ・領域別では、国語の「知識及び技能」、算数の「データの活用」において正答率が低い傾向が見られた。 ・国語・算数ともに後半の設問ほど無回答率が高くなっており、最後まで粘り強く考えながら解答する力に課題が見られた。	
↓		↓	
今年度の成果と 次年度の課題		結果から考えられる 児童生徒の実態	
※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)		・観察や結果の考察を行う場面では、図や表、文章から必要な情報を見つけ、条件に合わせて考えたり説明したりする力が身に付いている。 ・一方で、複数の情報を関連付けて考える問題や、自分の考えを理由とともに書く問題では、全国平均や市平均を下回る傾向が見られた。 ・そのため、学習した内容を活用して考えることや、「なぜそうなのか」を理解することに課題があると考えられる。 ・問題文が長い場合や、複数の資料を比べながら考える場合には、必要な情報や要点を見つけるのに時間がかかる傾向が見られる。 ・また、情報同士のつながりを捉えたり、根拠を明確にして自分の考えを表現したりする力には、さらなる伸びが期待される。	
④ さいたま市学習状況調査結果の分析		③ 中間評価	
特徴的な結果	評価(※)	学力向上策の 実施状況	
	B	・国語、算数を中心に、どの単元においても読み取ったり考えたりする視点を明確にした発問・ワークシートの構成を意識して授業実践を行うことがおおむねできている。 ・時間配分や学習形態の工夫を通して、児童一人ひとりが様々な種類の資料から自分の思いや考えを表現したり、他者との交流を通して思いや考えを再構築する機会をおおむね確保できている。	
↓		↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態		学力向上策の 見直し	
※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)		・学校課題研修等の機会を利用しながら、ポートフォリオの内容を教職員で共有し、引き続き学力向上策の実践を推進していく。 ・朝の基礎学力タイムの取り組みを見直し、ユニバーサルデザインの視点で教室等の環境を整備したりするなど、児童の学習環境をよりよいものにしていく。	